

つるまき

温泉病院物語



私には双子の可愛い娘がいます。

仲良く一緒に暮らしていました。



ある日、私は右手が動かしにくいことに気がつきました。

病院でいろんな検査をして、

ALS(筋萎縮性側索硬化症)と分かりました。

この病気は体の筋肉がどんどんやせて

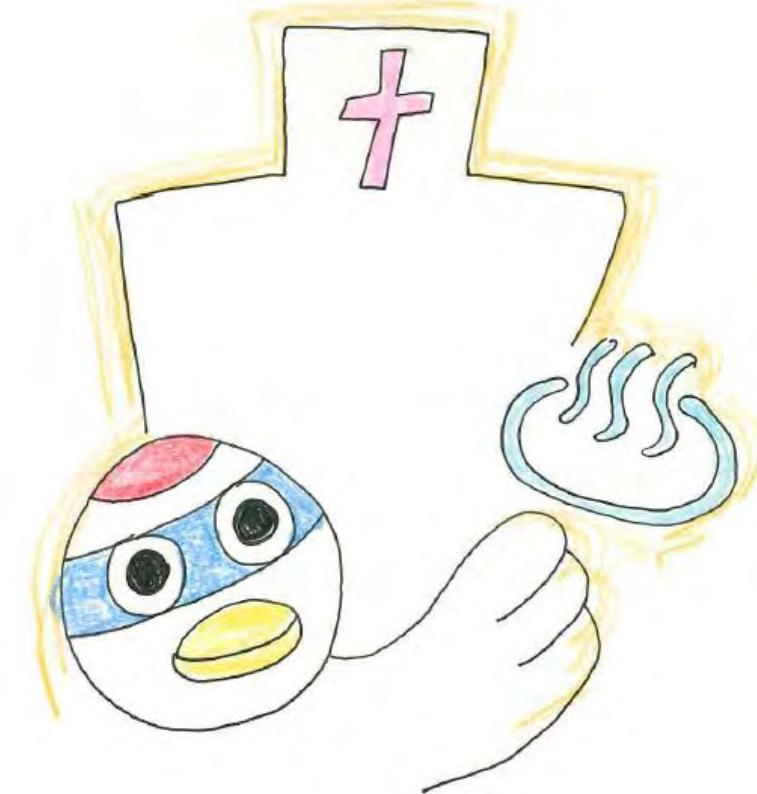
動かせなくなっていく病気。

私は家族に迷惑をかけたくない、お世話をしてもらえる

病院を探しました。



神奈川の少し外れに鶴巻温泉病院という
病院を見つけました。
私はそこに入院することに決めました。



私のお部屋の隣は可愛いおばあちゃん。

トイレに行きたくて、たまに私のベッドに近づいてきます。

夜起きたらベッドのそばにいたときはびっくり！

いつもニコニコ。仲良しのおばあちゃんです。



お風呂。ここは温泉病院だから、大きなお風呂があります。

家にいるときは、手が上がらないからシャワーだけ
浴びていました。

お手伝いの人が二人ついて、私の体を流しながら大きな
お風呂にいっしょに入りました。
久しぶりの肩までつかるお風呂。体がぽかぽかしました。



歩くこと。

足の力が弱くなってきたので介護福祉士さんに

支えてもらって歩いてます。

「1・2！1・2！」大きな声で掛け声を掛けてくれるの。

安心して歩くことができます。



話すこと。

少しずつ舌の動きが悪くなってきて、

お話しにくいこともあります。

でもいつも時間を見つけては楽しい話をしに来てくれる

可愛い介護士福祉士さんがいます。

おなかを抱えて二人で笑いあうの。



スイカわり！

朝から食事のときにお隣のおばあちゃんが
わくわくしてました。

みんなで集まって大きなスイカを割りました。

私は手の力が入りにくくなつたから、
可愛い介護福祉士さんと一緒に。

みんなで割ったスイカは、あとでおいしく頂きました。



ここは病院。

いろんな人が私のできなくなったことを

お手伝いしてくれます。

先のことを考えて不安になることもあるけど、いろんな人との“出会い”

が私を強くしてくれます。

仕事をしてたときに出会った人、

そして病気をしてから出会った人。

どこにいたって、自分がどんな状態だって

素晴らしい出会いにあふれているんだと、感じています。

ひとつひとつの出会いに、“ありがとう”の気持ちを忘れずに。

